

令和8年(2026年)3月10日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 張 裕 太 郎

## 学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者の皆さまに対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、改善の方向性をまとめるとともに、学校協議会の各委員の方々からもご意見をいただきました。

今年度は、児童アンケート全13項目中11項目、保護者アンケート全21項目中20項目において肯定的評価が80%以上という結果でした。

学校としましては、言うまでもなく現状に満足することなく、今後のよりよい教育活動等のため、改善と発展をめざしてまいります。

以下に、特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方々からの意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

4月から始まるよの西学園でも、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校となるよう、仲間とともに最後までやり切ることを大切にしながら、「なりたい自分を育てる」学校として組織的・継続的に改善・発展を図ってまいります。今後とも、保護者・地域の方々からご理解と参画を得ながら、関係機関と連携し進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団づくり

自己評価

- ・児童「学校に行くことが楽しい」、保護者「学校生活を楽しんでいる」の肯定的回答が昨年度と比べ減少しているものの、今年度も特に保護者結果の方で高い評価をいただくことができた。本校は閉校となるがよの西学園においても、全ての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた学校であるよう、努めていく。
- ・挨拶については、児童、保護者ともにおよそ90%と肯定的評価が高い結果であったが、よく挨拶できる児童と、そうでない児童が明確に分かれているように見受けられる。
- ・学校が大切にしなければならない、児童「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」、保護者「学校はいじめや子どもの悩みに対応している」の肯定的回答は、児童、保護者ともに90%を超え、特に保護者の方々から99%という高い評価をいただくことができた。今後も、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さないよう、担任一人だけではなく複数名で早期発見・未然防止に努めていく。

|        |   |
|--------|---|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者「学校は、一人ひとりの個性を大切にし、意欲や自信を持たせている」「学校は、互いに認め合い支え合う集団づくりに取り組んでいる」の肯定的評価は、それぞれ97%と99%とともに高い評価をいただくことができた。これからも、教職員が児童理解をもとに一人ひとりの良さを大切に、安心して学べる学級集団づくりを行っていく。</li> <li>・児童「自分には、よいところがあると思う」の肯定的評価は、昨年度に比べ微増した。今後も、結果だけでなく、過程を重視する指導を行い、「あきらめずに粘り強く生き抜く力」の育成を図っていく。</li> <li>・「思いやりのある行動ができてきている」の評価は、児童の方で減少が見られたが、実際の学校生活では、多くの子どもたちの思いやりのある行動がとれている場面はよく見られる。</li> <li>・「人の話をしっかりと聞くことができる」の項目については、児童、保護者ともに肯定的評価の割合が昨年度とほぼ同じ90%前後と高い評価であった。しかし、児童間トラブル等でも、自分の主張はできるが、人の話を聞く力が弱いことが起因になっているケースが今年度もあったので、これからも課題の一つだと考えている。</li> </ul>   |
| 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前述の、児童「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」、保護者「学校はいじめや子どもの悩みに対応している」の肯定的回答が高いアンケート結果は、学級担任を中心に、児童の困り感や悩みなどを見逃さないよう、複数名で早期発見・未然防止に努めてきた取組みの表れであると考え。一方で、「そう思わない」と回答のあった児童4%、保護者1%について、もちろん看過する訳にはいかない。今回の結果を真摯に受け止め、今後活かしていく。</li> <li>・学校規模は変わるが、普段から一人ひとりの児童への理解に努めていくことに変わりはない。引き続き、児童の状況を学年団や学部を中心に教職員で共有して、日々の教育活動に活かす。また、児童の困り感や悩み、小さな変化などを見逃さず、学校体制として早期発見・未然防止に努める。</li> <li>・今年度も集団づくりについての校内研修を行えた。これからも、様々な機会を通して、自己有用感を味わせる機会が少しでも多く持つことができるよう、また、子どもたちが成果を感じられるよう取組みを行い、共通理解のもと、児童一人ひとりが安心できる集団づくりをめざす。</li> <li>・学校の取組みの中での肯定的な言葉かけや、適切な評価が、児童の自己肯定感を高め、また、最後までやり遂げる経験をさせることで、達成感や「やる気」を育てていくと考える。引き続き、児童一人ひとりのよい点や可能性、がんばりを見つけ、積極的に評価し、学級集団に返していくことを大切にす。</li> <li>・今年度も児童会を中心とした挨拶運動を実施するなど、挨拶に関しての啓発活動を行った。大人による啓発も大切だが、子どもたちどうしの普段生活の中から、互いに声をかけやすい環境を作り、あいさつの大切さを改めて感じるとともに、自分から挨拶しようと思える児童を増やしていきたい。</li> <li>・「人の話をしっかりと聞くことができる」子どもの育成のためには、大人が子どもの顔をよく見て話を聞くことが大切である。子どもが話しかけてきたときに、適当な相槌や背中を向けたまま聞くようなことはせず、可能な限り向き直って、子どもの顔を見ながら話を聞くことが大切である。子どもは大人を手本にして育つ。毎日の生活での大人の姿こそが、子どもに最も影響力をもつ。子どもは大人が自分の話を聞いてくれる姿を見て、人の話を聞くとはどういうことかを学ぶ。学校も改めて上記のことを意識しながら、子どもたちの話をたくさん聞くよう心掛けていく。</li> </ul> |
| 関係     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりの努力の成果がここでも表れている。真摯に対応していただいている結果だと感じる。とよの西学園になっても大切に、ぜひ維持してほしい。</li> </ul>   |

|             |   |
|-------------|---|
| 者<br>評<br>価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の話を聞く」ことについて、大人が子どもの顔をよく見て話を聞くことはできていないことが多い。子どもと同様、大人の教育も必要ではないかと感じた。</li> </ul> |
|-------------|---|

| 確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る    |   |
|----------------------------|---|
| 自<br>己<br>評<br>価           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業は楽しくて、よくわかる」「授業が楽しくわかりやすいと言っている」「学校は、どの子もわかる授業づくりに取り組んでいる」など、学習に関する項目は、肯定的意見の割合は高い傾向にあるものの、昨年度と比較すると減少した。</li> <li>・「教科によっていろんな先生におしえてもらうとわかりやすい」「教科担任制は、学力向上につながるよい取り組みである」は、児童87%、保護者100%と肯定的評価は高い評価をいただくことができた。これからも、教科の専門性を生かした授業の質の向上や多面的な児童理解を大切にし、複数の教員で児童の実態把握を行い、その児童の実態に応じて学習活動を展開できるよう取り組んでいく。</li> <li>・「家庭学習や宿題を行っている」の項目は、肯定的評価児童89%、保護者91%という高い結果であった。実際、昨年度から実施している「家庭学習ウィーク」なども提出率が高く、熱心に取り組んでいる様子が伺える。</li> <li>・昨年度から児童、保護者ともに新たに追加した項目「自分の得意・苦手にも挑戦できる」について、昨年度と比較すると肯定的評価は減少した。普段の授業や生活でも、間違えることが恥ずかしい、できる限り失敗をしたくないと考えてしまう、そのような児童の言動が見受けられる。</li> </ul>   |
| 改<br>善<br>の<br>方<br>向<br>性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は単なる知識の伝達ではなく、個や集団の成長を促す場であり、集団づくりは個と集団のつながりを豊かにする全てであると言える。つまり、授業づくりと集団づくりは、互いに不可分で密接に関連するものである。安心できる対話的授業、学習集団が協働的な人間関係を育み、良好な集団関係が質の高い学びを促進する好循環を生み出す。今後も、安心して学べる学習集団の形成について大切にしていく。</li> <li>・今年度も学習習慣改善及び学習意欲向上の取り組みとして「家庭学習ウィーク」を、年間3回実施した。提出率も高く、前向きな取り組み、振り返りができていることに加え、保護者の方々からも好評価をいただいている。</li> <li>・「自分の得意・苦手にも挑戦できる」について。<br/>今年度の家庭学習ウィークの取り組みで、終わった後の子どもたちの家庭学習チャレンジカードを読ませてもらうと、「挑戦」という言葉が数多く書かれていた。これまでやらなかったことをやってみよう、いつもより回数を増やしてみよう、7日間続けてみよう、このような挑戦は、上手いかわからないことがあるかもしれないけれど、自身の成長と可能性を広げる大きなチャンスになる。<br/>また、大人の意識の変換も大切である。できなかったことや間違えたこと、失敗してしまったことなどは、必ずしも悪いことではない、と大人が思えるかどうかである。本来は、子どもが変わったり伸びたりするチャンスであるものを、大人が回避させたり、転ばぬ先の杖になっていたりしていないかどうかである。是非子どもたちに思い切って挑戦できる機会と場を提供し、やって良かったと実感できる体験と経験を持ち、次からも挑戦する気持ちを持ち続けられるようにしたいと考える。</li> </ul> |

|       |  |
|-------|--|
| 関係者評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方のご尽力のおかげで子どものモチベーションが高く維持できている。子どもたちにも伝わっていると思うし、努力も伝わる。とよの西学園でもとぎれなくこの姿勢を続けてほしい。</li> <li>・「家庭学習ウィーク」を行っていることが、子どもたちの学習習慣の定着につながっている。</li> </ul> |
|-------|--|

| 日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する |  |
|-------------------------|--|
| 自己評価                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目で、保護者、児童ともに肯定的評価の割合が高い結果であった。これらは、学級はもちろん、学校行事や児童朝会など様々な機会を通して、意識して児童に目標を持たせ振り返りをしながら、主体的な行事や学校内の諸活動になるよう取り組んできた成果の一つであると考えている。</li> <li>・同学年、異学年に関わらず、一緒に外遊びをしている姿がよく見られるが、一方で、よく外遊びをしている児童と、そうでない児童が分かれている。実際に、学級や図書室など、屋内で過ごすことができる環境づくりに取り組んだことや、夏の熱中症への対策として屋内で過ごさざるを得ない日が続いたことも、児童アンケートの結果に表れていると考える。</li> <li>・読書についても、肯定的評価は昨年度と比べ減少したが、校内においてこちらも、よく読書をしている児童と、そうでない児童が分かれており、各ご家庭においても同じ傾向ではないかと思われる。いずれにしても、日頃から本に親しむ機会については、引き続き課題として残ると考える。</li> </ul>   |
| 改善の方向性                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き、教職員が意識して児童に目標を持たせ、責任のある役割や本番だけでなく、準備・片付けなどを通して、児童による児童のための行事・諸活動になるよう取り組んでいく。</li> <li>・今年度も、オリンピックによる講演・実技指導や絵本作家さんが読み聞かせをしてくださるなど、児童と直接触れ合える機会を持つことができた。今後も、そのような児童の経験・体験する機会を持ちたい。</li> <li>・読書については、校内において、図書館独自の活動や委員会活動、オーサービジット事業（作家さんが自ら学校を訪問し、子どもたちに本の楽しさや魅力を伝える取組み）など様々な機会に積極的に児童・教職員が読書に関する活動を行ってきた。ただ、肯定的評価が下がっていることから、家庭を含め日頃から本に親しむ読書活動を行っていく必要性を感じる。</li> <li>・学校だより等でもお伝えしている通り、今年度、大阪府教育庁から「言語能力をはぐくむモデル校」指定を受け、取組みを進めた。10月31日に実施した全学年の公開授業では、意欲的に学ぶ子どもたちの姿への高い評価とともに、取組みや本校図書館のあたたかい雰囲気などにも賛辞をいただいた。これからも、授業における言語活動の充実などから、さらに言語能力をはぐくむとともに、学力向上のみならず、本に親しみ心を豊かにする一助となるよう、学校全体で取組みを進めていく。</li> </ul> |
| 関係者評価                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にたくさんの特別な講義や講演の機会を持ち、子どもたちに充実した機会やチャンスを与えていただいた。（応募に当選するなどの）運が良かったのもあるかも知れないが、子どもたちのために、申し込もうとチャレンジすることが大切だと思う。教職員の取組みの賜物。その結果、できたことだ。</li> <li>・「本に親しむ」機会自体が減っているのだろう。スマホなどでも読める世の中であることも要因の</li> </ul>   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>一つだと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びについては、木・金の運動場開放の参加者を見ている、例年より少なく感じる。子どもに運動のことを聞いたら、屋内で遊ぶ機会が多いと言っていた。学年によって傾向が異なるのかもしれないが、スポーツをしている子どもが少ないイメージもある。仲の良いお友だち以外の子どもと一緒に遊ぶことが苦手な印象もある。</li> <li>・学校行事や授業参観が多くあると、「学校行事に目標を持って取り組んでいる」評価も高くなるのではないかと思う。子どもの頑張りなどを見ることができると良いと思う。</li> </ul> |
|--|--|

| 地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して） |   |
|---------------------------------|---|
| 自己評価                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は5月に東京都で不法侵入事件が起き、校区内においても不審者や害獣の情報が出されるなどした1年であった。不審者対応や緊急災害時のマニュアルについては、毎年訓練や総括をし、見直し及び改訂を行い、学校の情報等を含め学校だより等でお知らせしている。校内での避難訓練、引渡し訓練も行え、実際に緊急下校を行うこともできた。</li> <li>・保護者や地域ボランティアの登下校の見守り、地域とのつながりに関しては、今年度も高く評価されている。</li> </ul> |
| 改善の方向性                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、保護者向けの緊急下校訓練を全学年対象に行うことができた。いつ起こるか分からない方が一に備え、課題点を整理し改善していく。</li> <li>・見守り活動や授業支援、校内花壇整備など、日頃から多くのサポーターの方々にご協力いただき、支えていただき、より充実した教育活動を行うことができた。この場をお借りしお礼申し上げます。本当にありがとうございました。</li> </ul>                                       |
| 関係者評価                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校はできていると思う。一方で、セキュリティー面は気になる。この2つは相反するところもある。丁寧な環境作りをして頂いている。とよの西学園でも維持してほしい。</li> <li>・授業参観時の入り口付近には、いつも教職員が立っている。新しい学校では、警備員を配置するなども考えてもらいたい。</li> </ul>   |

（全体を通して）

- ・先生方には大変尽力して頂いている。
- ・例年通り好評価。
- ・大人の反省が多い。
- ・保護者の意見より：何かあったらすぐ電話があるが、すぐに対応ができないこともある。申し訳ないくらい「こんなことで」と思うこともある。LINE ならすぐ見られるので便利ではある。こういうアプリを導入してもらえるとありがたいと思う保護者は多いと思う。一方で、文字で送るとニュアンスがきちんと伝わらないこともあるので、保護者は便利さを求めがちではあるが、先生と保護者が直接話すことも大切だと思う。直接伝えなければならない事項は電話、報告だけならメール、など、使い分けが大切だと思う。
- ・アンケート結果より将来的な事が気になる。

・新しいとよの西学園について

- とよの西学園の駐車場の件について、やはりどうなのかと思う。
- 子どもたちに対して、とよの西学園になったときのことをどのように話しているのか気になる。
- 子どもたちにとって新しい環境が、友だちも増えると同時に先生もこれまでの先生と違うこともある。先生方がどうなるのかも気になる。
- 子どもたちは、(保育所や幼稚園などで知っているお友だちと)また集まれるので、喜んでいる。
- 通学の見守りの件について、地区ごとに違うので、分からない。どこがイニシアチブをとるのかも気になる。
- とにかく、来年度への不安が大きい。

・学校の跡地活用方法について、体育館やあそび場として使える「子どもの家」として、一部教室などを開放できたら面白い。子どもたちの放課後の居場所として、使ってはどうか。3校でそれぞれあったら面白い。

(最後に)

私が自分の母校の小学校を卒業し思い出すことは、運動会のような大きな学校行事のこともそうですが、どちらかというと、毎日の何気ない休み時間のことや放課後遊んだこと、授業で失敗したり間違えたりしたことの方がよく覚えています。先日懐かしくなって母校を見に行ってきました。あの時たくさん遊んだジャングルジムも、プールや鉄棒も、運動場でさえ今となってはすべてが小さく感じ、それと同時に走馬灯のように、そこにいた仲間や先生方の顔が、おぼろげながら思い出されました。私にとって、かけがえのない思い出です。

皆さまもご存知の通り、本校は今年度で閉校となります。様々なところで「最後」という言葉が付く1年間でしたが、子どもたちにとっては、これまでと同じくかけがえのない大切な1年間であることに変わりはありませんでした。新しく始まるとよの西学園でも子どもたちがしっかりと顔をあげて前を向いていけるよう、「最後」だけにとらわれず、後ろばかりを振り返らず、すべての児童が「今日も来てよかった」と実感できる学び・活動する喜びに満ちた東ときわ台小学校であるよう、取組みを続けてまいりました。結果、今回の報告書でまとめました評価をいただくことができました。良かった点は引継ぎ、改善すべき点は改めていくことを前提としながら、子どもたちの頑張り、本校教職員の尽力のおかげでここまで来ることができました。そしてこのことは言うまでもなく、学校だけではなく各ご家庭や地域において、温かい声かけや励まし、応援、見守っていただく環境等が基盤としてあってこそのことだと考えます。今年は特に、そのようなことを強く感じさせていただく1年間でありました。そういった日頃のご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、新しい学校になりましても、引き続きお願いいたします。

形あるものは風化し、やがてなくなるものです。しかし、私たちをここまで育ててくれた東ときわ台小学校との思い出は、いつまでも風化しないように心にしっかり刻み込んで、新たな場所で子どもたちとともに未来を進んでいきます。本当にありがとうございました。

(文責:張)